

梅鶯仙教壮年会報

特別記念号【二〇〇号】

200th Memorial Edition



浄土真宗本願寺派

莊巖山 法輪寺



梅鶯仏教壮年会報

梅鶯仏教壮年会休会にあたって

法輪寺 住職

長野了法



法輪寺梅鶯仏教壮年会は、諸般の事情により、令和八年三月末をもって休会とさせて頂きました。

本会は、二〇〇三（平成十五）年六月一日に第一回総会が開催され誕生致しました。

会としての活動は、「総会」「例会」「報恩講」「法輪寺永代経参拝」「除夜会」「聞法親睦旅行」、および毎月の「会報」発行という重厚なもので、その行事内容は発足当初より今日までの二十二年十か月の間、滞ることなく継続されてきました。会報も本号で200号を数えることとなります。

ある先人がつぎのようなことを仰っています。

十年偉大なり

二十年畏るべし

三十年歴史になる

五十年神の如し

つまり、「二つのことを十年続けることは偉大であり、二十年続けることができれば畏敬すべきこと、さらに三十年続けられれば歴史となり、そして五十年続けるとなれば、それはもう神の如き存在である」ということです。

確かに一つの物事を五十年続けるには、天地のあらゆるめぐみと、数知れない多くの方々との諸縁がなければ到底果たせることなく「神の如し」というのは大いに頷けることです。

ただしこのことは多少の差こそあれ、二十年続けられたことにおいても、同じことが言えると思います。

つまり梅鶯仏教が天地のめぐみと、多くの方々の縁、とりわけ会員同士のご法縁は何事にも代えがたいものであり、そのお陰があればこそ二十三年もの長い間続けられてきたのだと思います。

『二十年続けることができれば畏敬すべきこと』という先人の言葉が実感され、改めて会員の皆様や会報を読み続けて下さった有縁の皆様は心より感謝申し上げます。

さて本会は休会となりますが、新たに『梅鶯聞法の集い』（世話人「田中薫氏」「森勝昭氏」）を設けます。この会は特定の会員制度とはせず、聞法の機会を広く呼びかけ、共にお聴聞を続けさせて頂きたいと思えます。

なお、梅鶯仏教の関係資料（「会報全号」「総会資料」「教材資料」「法話原稿」等）は、発足当初よりすべてデーター保存しており、また会報各号の記事が掲載された莊嚴山法輪寺HP（ブログ）も継続いたし、後世に継承されていくことを願っております。皆様、誠にありがとうございました。

深謝合掌



語り合い、
尋ねることの大切さを念じられた、
記念すべき第1号

会報発刊記録

【創刊】平成15年（2003年）【最終号】第200号 【発行期間】約23年間 【発行回数】200回

題材法話

結びのことば

2000号に渡る会報では様々な記事を掲載してきましたが、「題材法話」だけは全号で掲載させて頂きました。その題材法話も最後となりました。

作家の五木寛之さんは50歳前後の時に龍谷大学聴講生として仏教史を学ばれましたが、その時に師事され後々まで慈父と敬慕されたのが龍谷大学名誉教授の千葉乗隆先生（2008年往生）です。その千葉先生から若かりし頃のこんなエピソードを聞いたことがあります。

■千葉乗隆先生のエピソード

千葉先生は学生時代に京都のある寺院に下宿されましたが、たまたま休講等で授業がない日に下宿で惰眠を貪っていた時、寺院の住職からこのようなことを言われたそうです。

「たとえ講義がなくとも大学に行くことは大切だ。大学の学舎には知的好奇心を醸し出し、人格を陶冶する雰囲気がある。その雰囲気に浸ることが大切なのです」

この時の住職の言葉は今でも大切な言葉として私の心に残っています、と仰ってました。

■道元禪師のことば

「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる。よき人に近づけば覚えざるによき人となる」

これは曹洞宗の宗祖道元禪師のことばです。

霧の中を歩いてみると、自分では気付かないが、いつのまにか衣服が湿ってくる。善き人や友と一緒にいることの大切さを示しておられます。

■香光莊嚴

染香人のその身には

香氣あるがごとくなり

これをすなわちなづけてぞ

香光莊嚴とまうすなる。

これは親鸞聖人のご和讃です。

かぐわしい念仏の心をもっている人は、その身から智慧の香氣を放っているようである。このように香氣で飾られていることを、香光莊嚴と申し上げるのである、ということなのです。

お念仏のみ教えは知識や理屈で得られるものではありません。「弥陀ご本願のお育てによりお念仏を申す身となり、必ずお浄土に生まれ仏とならせて頂く」ことを悦ぶ人の姿をみて、この私もお念仏者に育てられるのでしょうか。

■梅鶯仏社の23年間

梅鶯仏社は発足以来の約23年間、法輪寺本堂を主たる会所として、ほぼ変わらぬメンバーで集ってきました。

この本堂では幾度もお勤めをし、聴聞を重ねてきましたが、もっとも大切であったことは本堂の光と香りの莊嚴に包まれてきたことではなかったでしょうか。

仏社の発足まではお寺に縁の薄かった多くの会員が、これほどまで法輪寺本堂の香光莊嚴に包まれる機会を共に得たことこそが、念仏者としての確かな歩みではなかったかと思えます。

その23年間、本堂莊嚴の護持に勤めてきた坊守の法名が、『莊嚴院釈法香』であることにも深い感慨を覚えます。（完）



会員寄稿集 … ご縁を振り返って

梅鶯仏教壮年会 二十三年を 振り返って。

原稿を書くにあたり、長野ご住職が公開されている法輪寺のホームページや会報を改めて読み返してみました。少しずつ読み進めるうちに、その内容（寄稿文も含めて）の充実ぶりに引き込まれ当時の思い出が次々とよみがえり懐かしさに時間を忘れるほどでした。本当に多くのお話を伺い、さまざまな活動や研修旅行を重ねてきたことをあらためて実感しています。

二〇〇三年六月八日発行の第一号会報には、六月一日に初の総会が開催され、役員が決まったこと、会員数（会員十五名、賛助会員十三名）、役員名簿などが記載されています。また、第一回総会の資料には会員名簿、梅鶯仏教壮年会会則、カリキュラム案などがあり、ご住職の強い意気込みがその紙面から今も伝わってきます。

会則第二条（目的）には「本会は、浄土真宗本願寺派門信徒壮年が、共にお念仏を悦び、互いに親睦を深め合うことを目的とする」と明記されています。この簡潔な第二点こそが、二十三年にわたり活動が続いた原点だと感じました。

私は発足年に平田同行の年番会計を担当していた縁で入会しました。この入会がその

後の宇賀野での生活に彩りを添えてくれるとは、当時想像もしていませんでした。

入会当初はお経もまともにあげられず、他力本願、お盆、報恩講、おとりこし、法名（戒名とは言わない）など、何も知りませんでした。また、中学卒業と同時に宇賀野を離れ、三十歳前に戻ってくるまで人生の半分以上を他の地で過ごし、帰郷後も京都へ通勤していましたので、宇賀野では浦島太郎でした。まさに、ないない尽くしの時代でした。

ところが、梅鶯仏教壮年会への入会がきっかけとなり、いまではお経もあげられるようになり（十分ではありませんが）、浄土真宗の歴史や考え方などの法話をお聞きして、これまでの仏教に対する考え方はまったく異なる解釈や視点を学ぶことができました。

また、仏壮の方々が属の要のようになっていただき、地元の方々との交流にも恵まれた。次々に交流の輪が広がっていきまし。私にとっては入会の結果が、会則第二条の「目的」そのものになりました。ありがとうございました。

入会時は五十二歳で、今から思えばずいぶん若かった（顔や容姿にも張りがあり？）と思います。長男と長女はそれぞれ仕事や学業で家を離れていましたが、両親も健在で、夫婦ともに健康で、今と比べてはるかに賑やかで活気ある日々を送っていたと思います。

その後、退職、営農組合への参加（本願寺参拝時に同行された粕淵忠司さんから話がありました）、父の死、区の役回りの拝命、子どもたちの結婚と孫の誕生、親戚な

と近しい人との別れ、母と妻の病氣、心身の衰えの自覚など、さまざまな出来事がありました。年齢を重ねるにつれ仏縁も深まり、梅鶯仏壮でのお話が身に染みて理解できることが増え、つくづく参加して良かった・助かったと感じることが多くなってきました。

こう振り返ると、梅鶯仏壮の二十三年は私の後半生の一部だったようです。

もしこの会がなければ、今の自分はもうなっていたのかと思うと、想像するだけでも恐ろしい気持ちになります。

長野ご住職様、故美佐子坊守様、ご家族の皆様、長い間本当にお世話になりました。二十三年続けることはどれほど大変だったか、今回振り返ってみて改めて痛感しました。

また、二十三年間にわたる会報や法話の情報は、すごいものがあります。継続こそ力なりといいますが、そのためには地道な努力の継続があつてこそだと思います。心より御礼申し上げます。

会長 北村幸雄



梅鶯仏教壮年会 休会にあたり

思い起こせば平成十五年、長野ご住職が梅鶯仏教壮年会を再設立（過去に『梅鶯仏教青年会』が存在）しようと一念発起され、私たち会員をお導き頂いてから早や20年超が経ちました。

往時、ご住職から本会にお誘いを頂いた時、幼い頃に祖母（おまっちゃん）に連れられて寺参りや法事参りをした記憶が蘇り、何かしら嬉しい気持ちと同時に光栄にも感じていました。（本当に仲間に入れて頂いて良かったです！）

本会の活動は、法輪寺を拠点にして定例会でのお経のお勤めやご住職の法話を聴聞すること、課題を持った勉強会、研修会への参加、親睦旅行の実施等々でありました。活動の中で多くを学ばせて頂きましたし、また有意義な時間を会員の皆さんと共有することができました。

中でも平成十八年の本山参拝で「おかみそり」を受け法名を頂いたことや、朝の勤行の際に「しょんとセイ！」と大声を発し、お堂におられた千人の門徒衆のざわつきが一瞬にして消え、シーンと静まりかえった出来事、また翌年の金沢別院参拝での兼六園散策ならびに片町にて

のお資親睦会においては、飲んで飲んで飲んで飲んで飲みまくった、こと等々たいへん印象深い思い出があります。

先日の最後の総会で、ご住職から本会が20年超継続したことについて言及された折り、先哲の言葉『20年続けることは畏敬すべきことだ』のご紹介がありました。仕事でも趣味でも何でも続けることの大切さや物事を続けることは大変難儀なことなんだと理解いたしました。私も【継続は力なり】という言葉がいつも心の中に置いて自分への励みや戒めにしております。

ご住職をはじめ、早逝された坊守さんや会員の皆さんのご協力により、ここまで歩んでこられましたことに、改めて深い感謝の念を抱いております。本会で頂いたご縁と学びは、決してこれで終わるものではなく、それぞれの歩みの中でこれからも生き続けていくものと思います。

ひとまず休会というかたちを迎えますが、この尊い歩みがまたいつの日か新たなかたちでつながっていくことを念じつつ、結びとさせて頂きます。「皆さん！あざあした！」

初代会長 北村喜代信



わが人生に おける梅鶯仏壮

終戦と言葉が通じなくなりつつある今、昭和がすぐ過去の時代のように語られるのを最近よく耳にします。私にとっての昭和は人生の歩みそのもので、兄弟達に手を引かれて線路をまたぎ法輪寺の日曜学校に連れて行ってもらった頃が、昨日のように鮮明に・・・。

日曜学校で教えていただいた「お経さん」や「紙芝居」、わけの解らぬままでしたが、なんとなくその時に沁みついた「何か」が、今の私の生き方に大きな支えとして厳然と働き続けているように感じています。

長いようで短く、とらえ方によって、短いようで長い人生ではあります。が、ただ何となく生きていた時もあれば、すごく充実した生き方をしていると感じる時もあったような気がします。ある時は少しだけ真面目に学んだりしましたが、大半は遊びに遊び、だらしく生きて参りましたが、そこから学び取ることも沢山あったような気がします。勉強することも、働くことも、遊ぶことも、我が人生における最高の暇つぶしかと。

第二代会長 田中薫



ただし、ご先祖様のおかげにより、「私と言ふ一度きりの命」を受けさせていただいているからには、これからの世代にも生きる事の、否、生かされている事の喜びを伝えて行ければと感じています。

幸いにも私は、法輪寺長野了法前住職のお導きにより、梅鶯仏教壮年会復興創設時から関わらせて頂き、おかげ様で仏教そのものに少しばかり近づかせていただくことが出来ました。それとともに多くのご同朋と巡り合えたことも最高の賜りものでした。

ご同朋との法輪寺での例会や除夜会、本願寺研修、別院での研修会、等々、その後のおとき、すべてが最高の時間でした。それこれも梅鶯仏教壮年会会員皆さんのお陰で成しえた事です。

新任職となられました真了さん、新坊守彩葉さん、これからもよろしく願います。

梅鶯仏教壮年会、 二十三年の 思い出

梅鶯仏教壮年会は、二〇〇三（平成十五）年六月一日に結成されました。初回出席者は会員9名、賛助会員（仏婦）4名で合わせて13名（登録会員総数28名）でのスタートでした。

目的は、「共に一念仏を悦び、共に親睦を深め合うこと」として、これは滋賀教区仏壮連盟の綱領にも、「壮年会は、自ら生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、共に一念仏申す朋友の輪を広げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします」とあります。

自分だけでなく、朋友と言う言葉は自他共に目指して行く道であることを示しています。このようなことを目標に活動してきました。私自身、初めは何の予備知識もなく手探りの出発でした。法輪寺住職長野了法様のご助言、ご指導のもとに素晴らしい会員の皆様と共に歩んで来ました。

活動内容は、二カ月毎の例会、法輪寺の法要参拝、研修旅行（本山参り、別院巡り、念仏奉仕団等）などで、我が人生に多くの思い出を頂きました。

一九四七（昭和二十二）年に結成された私たちの大先輩「梅鶯仏教青年会」の活動記録を拝見して感銘と衝撃を受けました（会報135〜143号記載）。

何月何日に何をしたらと事細かく記載されて、当時の青年たちの熱意が伝わってきました。

その後を追うように、例会、研修旅行などを通して見聞を広め貴重な体験に恵まれました。長野住職様のご配慮で本山や別院などでは貴重な施設や宝物を拝見し、様々な先生方との対面、対話をさせて頂くことができました。

特に感動したのは、二〇一六（平成二十八）年九月に奈良薬師寺や東大寺を参観した思い出です。村上薬師寺管主様（当時）や宗教評論家のひろさちや氏との懇親会を近鉄奈良駅前の居酒屋でさせて頂くことができました。この貴重な体験は生涯忘れることのない思い出です。

この様にして、梅鶯仏教壮年会は長野住職様のご指導のもと成長してきました。貴重な体験や学習してきたことを、これから残された人生に活かして1日1日大切に生きていきたいと願っています。

合掌

第五代会長 森勝昭



法輪寺梅鶯仏教 壮年会会報

200号の歴史に寄せて

『梅鶯仏教壮年会報』、初期のころの出会いのお話が浮かんでまいります。今日までの歴史、折に触れ大切なこと、2003年以来脈々と会報を通して数々のご法話を解りやすく書き伝えて下さいました。

時にはご講師様方の「ここが肝心なところですよ」というところを長野了法住職様から何時も解りやすく『題材法話』としてお伝え下さいました。

「私のデスク上段に会報の綴りが辞書の如く陣取っています。読ませて頂く度に法話が走馬灯のように浮かんできます。

これからは皆様との出会いと思い出を大切に、そして現在の自分を再確認振り返り反省に至る事ばかりですが、年を重ねた現在、難聴、腰痛を指摘されても諦めるほかない此の頃、しかし有難いことに視力は親様から頂いたままを今日も当然の如く読み書きしつつ日々を過ごさせて頂いただけのこと、大いに感謝するばかりです。

今日までおかげ様で会報を届けて下さいましたご苦労（私毎、居ながらにして）何時もここに蘇るうれしい瞬間でした、ときに嬉しい時も、また悲しいことがあっても、私なりに好きな言葉大切な幾つかの言葉に度々出会わせていただけると本当に

嬉しい出会いがいつもありました。その中に「ありがとう」の五文字お念仏とも相通じる事も『題材法話』の中でもお伝えいただきました。自然と若いころから、このころの奥でときには、その言葉の語尾に（様）をつけて（〇〇さんありがとう様・・・）感謝ばかりの昨今です。梅鶯仏教壮年会、仏法にご縁の深い皆様方、会報200号長きに渡り折に触れ、会員皆様の投稿のご縁に出会わせていただきました、そして遠くからのご縁をいただきました方々にも、あらためて懐かしい京都でのエピソードや数々の楽しかった思い出が浮かんで消え出会ったこと、この一つの歴史に感謝とお礼申します。

『題材法話』の中で、作家五木寛之さん自身自身の鬱体験を自分自身が抜け出る発想を次々試されたお話を、2回にわたり詳しくご住職様の解説も加え掲載していただきました、文章の後半に「あんがと」という言葉をリアルな体験を交えたお話内容でした、さりげなくお互いを包み込んでくれる言葉、嬉しい時も悲しい時も、感謝を込めて「ありがとう様」。

合掌

田中隆



梅鶯仏教総連会 会報の200号 最終版に寄せて

仏社の会報を毎回拝読し浄土真宗のみ教
えを学んでいました。

坊守様がお浄土へ旅立たれ、残された私
共は寂しい思いをしています。会報20
0号で完とされることに篤い気持ちで感謝
を申し上げます。

長野ご住職様には、大事なお仕事をされ
つつ定期的に私共へ浄土真宗のみ教をこ
教授頂きました。

人それぞれに与えられた命があり精一杯
生きることの大切さを思うと不思議な力で
生かされていると感じる毎日です。

善因善果・悪因悪果（因果応報）のみ教
えや自己中心的な生き方ではなく、出来る
限り周りに配慮し、人に尽くすことの大事
さを感じます。

両親をはじめご先祖様への感謝や報恩の
心が重要と考えます。

人は1人で生きることができなく、周囲
の人に支えられて毎日を暮らしており、支
え合うことが大切です。横暴な態度ではな
く謙虚な気持ちで生活したいものです。

立派な梅鶯仏教壮年会報をファイルに残
してあり、心静かに読む事も大事と考えて
います。200号目の会報が発行されます

が、多くの人々のお世話で完となること
に、心から厚く御礼を申し上げ皆様方の
益々のご健康と充実した生活をお年次申し
上げます。

北村秀雄



梅鶯仏教壮年会 のあゆみ

平成十五年から令和七年の二十三年間活
動をして参りましたが、先般の三月二十二
日の令和八年度総会において、今後は『梅
鶯問法の集い』を発足し、仏社は終会とは
せず将来再開される可能性を考えて休会と
なりました。

発足時の会費は千円、会員数15名、賛
助会員13名で、プログラムは「お勤め」
「法話」「話し合い」「お勤めの練習」でし
た。私は平成二十七年から令和二年までの
6年間、副会長を務めさせて頂きました。
皆様のご指導ご協力より自由闊達の中で年
間行事が進捗するように頑張って参りまし
た。今後も「元氣」「やる氣」「根氣」をモ
ットーに邁進して参ります。

最後になりますが、いつもお世話になっ
ています住職様、故坊守様に改めて御礼申
し上げます。

合掌

森英雄



梅鶯仏壮休会 にあたり

突然の休会のお知らせに、時の流れの速さを痛感しております。

私は参加した時期こそ遅かったものの、長野住職のご教導なくしては『正信偈』の深い世界に触れることは叶いませんでした。

各地への寺参りや武蔵野大学での記念事業への参加、理事長室ご訪問、築地本願寺への参拝など多角的に仏教を体験させて頂いた日々は、私にとってかけがいのない財産です。

特に上山大峻先生による「金子みすゞ」のお話は、今も深く心に残っております。

これまで温かく導いてくださった長野住職、そしてともに歩んだ皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

北村正隆



梅鶯仏壮23年 の思いで

光陰矢の如し梅鶯仏教壮年会は、二〇〇三年の六月一日に結成され、当初は13名のスタートだったと聞いています。

活動内容の中で思い出は、法輪寺の法要参拝、研修旅行の本山参りや別院巡りで、長野住職様のご配慮で一般参拝者が入ることが出来ない場所の見学や、諸先生との面会お話を聞くことが出来たことです。

特に記憶に残っているのは洋館のような東京築地本願寺の参拝、奈良薬師寺・東大寺の参拝で大仏様の内部を見学させて頂いたことです。また伊勢への研修旅行で美味しい伊勢海老を腹いっぱい食事がしたことが昨日のことのように記憶に残っています。

この様に長野住職様のご指導により梅鶯仏壮において貴重な体験や勉強をさせて頂いたことを、これからの人生に役立てて行きたいと思っています。

田中直樹



二百号記念誌の発刊にあたり、
ご寄稿いただいた皆様に
心より感謝申し上げます。



梅鶯仏教壮年会 歴代役員の歩み

第一期

平成15年4月 }	会長	副会長	会計	監事
平成18年3月	北村喜代信	田中薫・北村幸雄	田中善博	森勝昭

第二期

平成18年4月 }	会長	副会長	会計	監事
平成21年3月	田中薫	田中善博・森勝昭	北村新一郎	北村幸雄

第三期

平成21年4月 }	会長	副会長	会計	監事
平成24年3月	北村新一郎	田中善博・森勝昭	北村幸雄	田中直樹

第四期

平成24年4月 }	会長	副会長	会計	監事
平成27年3月	田中善博	森勝昭・田中直樹	北村幸雄	北村正隆

第五期

平成27年4月 }	会長	副会長	会計	監事
平成30年3月	森勝昭	田中直樹・森英雄	北村正隆	田中薫

第六期

平成30年4月 }	会長	副会長	会計	監事
令和3年3月	森勝昭	田中直樹・森英雄	田中善博	田中薫

第七期

令和3年4月 }	会長	副会長	会計	監事
令和6年3月	北村新一郎	田中善博	田中薫	森勝昭

第八期

令和6年4月 }	会長	副会長	会計	監事
令和8年3月	北村幸雄	森勝昭	田中薫	田中善博

2003-2010

例会住職法話 親睦旅行の軌跡

2003

平成15年
法話：仏教・浄土真宗の教え全般

2004

平成16年
法話：仏教・浄土真宗の教え全般
親睦旅行：本山参拝

2005

平成17年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬

2006

帰敬式5名

平成18年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬
親睦旅行：本山参拝

2007

兼六園観光

平成19年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬
親睦旅行：金沢別院

2008

平成20年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬
親睦旅行：本山参拝

2009

平成21年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬

2010

平成22年
法話：『正信偈を味わう』①～⑬
親睦旅行：親鸞聖人750回大遠忌・
坂田組お待ち受法要

竹灯籠（平成18年）



報恩講（平成20年）



赤松先生と（平成20年）



除夜会（平成22年）



2011-2018

2011

平成23年

法話：『正信偈を味わう』①～⑱

親睦旅行：親鸞聖人750回本願寺
大遠忌法要

2012

スカイツリー観光

平成24年

法話：『正信偈を味わう』①～⑱

親睦旅行：築地本願寺

2013

名園紅葉狩り

平成25年

法話：『正信偈を味わう』①～⑱

親睦旅行：本山参拝

※『正信偈を味わう』①～⑱は、9年間にわたり、正信偈120句を味わいました。

2014

平成26年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～⑳

2015

上山先生ご自坊参拝

平成27年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～㉓

親睦旅行：金子みすゞ記念館

2016

ひろさちや講演会

平成28年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～㉓

親睦旅行：本山・薬師寺

2017

エキシブ有馬離宮泊

平成29年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～㉓

親睦旅行：神戸別院

2018

大阪城観光

平成30年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～㉓

親睦旅行：津村別院

松下村塾（平成27年）



上山先生と（平成27年）



金子みすゞ館（平成27年）



例会（平成28年）



2019-2025

2019

エキシブ鳥羽泊

令和元年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

親睦旅行：名古屋別院・専修寺

除夜会(平成28年)



2020

令和2年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

親睦旅行：本山念仏奉仕

竹灯籠(平成28年)



2021

令和3年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

2022

令和4年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

村上薬師寺管長

&ひろさちや氏と(平成28年)



2023

日帰りの旅

令和5年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

親睦旅行：赤野井別院・錦織寺

2024

武蔵野大学訪問

令和6年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

親睦旅行：築地本願寺

神戸別院(平成29年)



2025

坊守還生

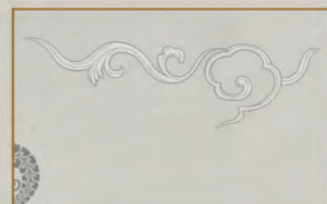
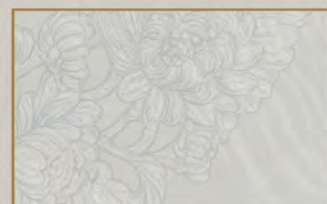
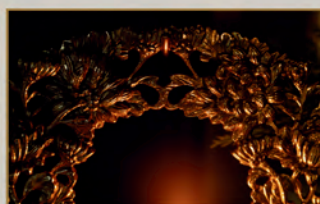
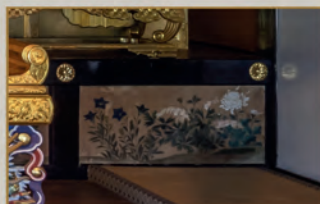
令和7年

法話：『浄土真宗のみ教え』①～②③

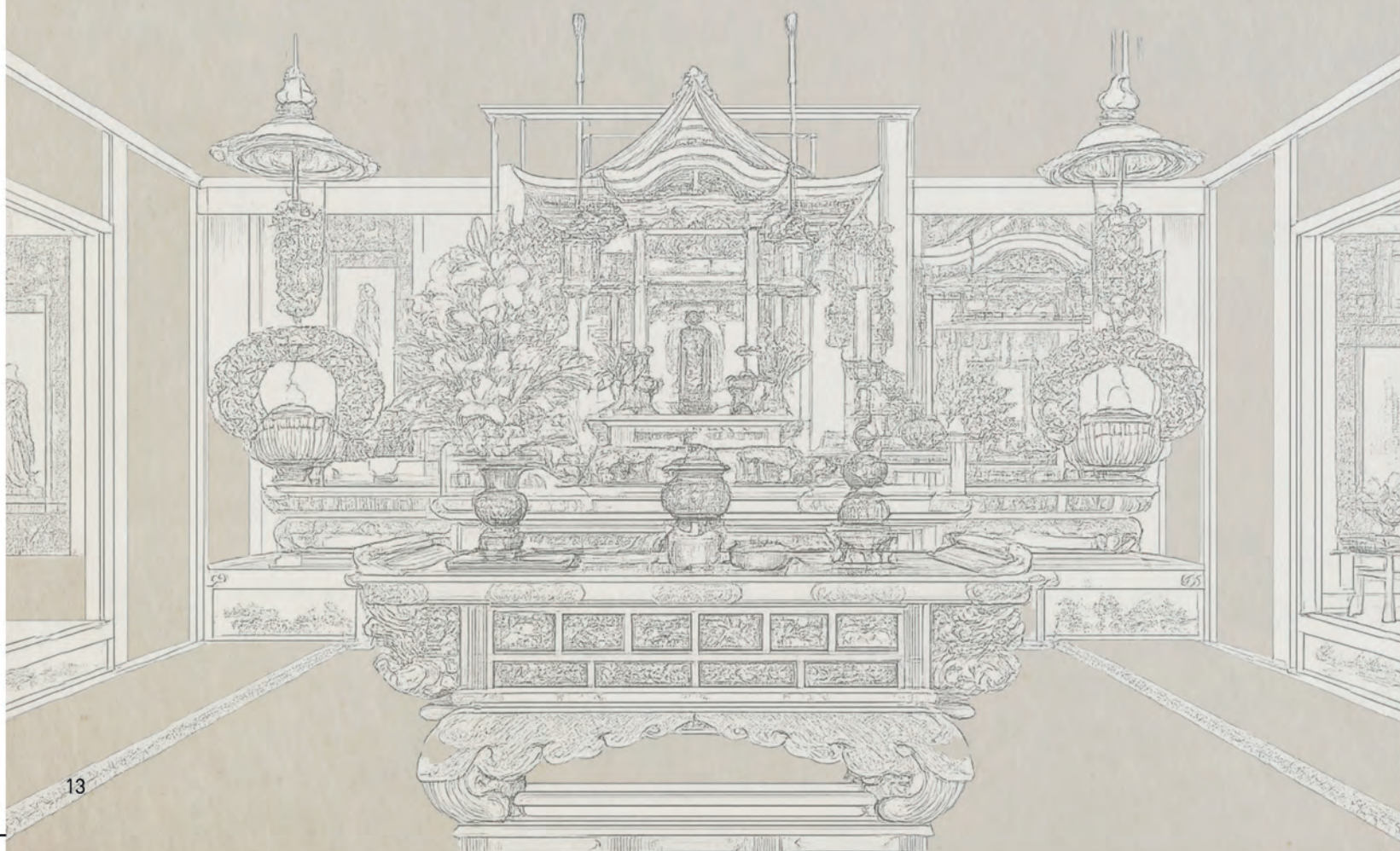
※『浄土真宗のみ教え』①～②③は、12年間に渡り「拝読 浄土真宗のみ教え」を味わいました。

誌面を彩った法輪寺所蔵品のイラスト一覧

ひとつひとつに、これまでの歴史の歩みと、
皆さまの思いが込められています。



二百号の歩みに
感謝を込めて
合掌





梅鶯仏教壮年会

